

くにしていしせき ところいせき じょうもんしだい ぶんかき
 国指定史跡「常呂遺跡」は縄文時代からアイヌ文化期にかけての遺跡です。この遺跡の特徴の1つは、大昔の集落の跡が今でも地面の上に見える状態で、広い範囲に残っていることにあります。竪穴住居の跡が完全には埋もれずに窪みとなって残っており、こうした竪穴の跡が「常呂遺跡」全体で約2700基見つかっています。

「ところ遺跡の森」はこの「常呂遺跡」の一部を整備・公開したものです。実際の遺跡とその発掘・研究の成果を合わせて見ることができます。

1 ところ遺跡の館

遺跡の森の玄関口にある施設です。常呂地域の各地の遺跡で発見された考古資料を展示しており、実物を通して大昔の歴史を見て学ぶことができます。



2 ところ埋蔵文化財センター

常呂地域の遺跡で発見された資料の収集・保存の施設です。展示コーナーでは樺太アイヌの民俗資料などを常設展示しています。



3 東京大学大学院人文社会系研究科附属 常呂資料陳列館

遺跡の森内には東京大学の実習施設が開設されており、東北アジア考古学研究の拠点となっています。常呂資料陳列館はその付属施設で、大学の調査・研究成果の一部が展示公開されています。



ところ遺跡の森 案内図



4 擦文の村

さつもんしだい
 擦文時代の後半、11～12世紀頃の遺跡です。正方形の竪穴住居を建てた跡が四角い窪みとなって残っています。一部の竪穴住居跡は建物や柱の位置を復元して展示しています。



1号復元住居 (高さ約6m)



地表に残る竪穴住居跡 (擦文の村)

5 6 続縄文の村・縄文の村

せきじょうもんしだい
 約5000～2000年前、縄文時代から続縄文時代の遺跡です。竪穴住居の跡が円形・楕円形の窪みとなって残っています。一部の竪穴住居跡は建物や柱の位置を復元して展示しています。



6号復元住居 (奥)・7号露出展示住居



地表に残る竪穴住居跡 (続縄文の村)

7 チャシ跡

がけ
 崖の先端がみぞで区切っており、小規模なチャシ (アイヌ語で砦のこと) と推定されています。ただし、発掘ではアイヌ文化の遺物は見つかっておらず、どの時代のものか正確には分かっていません。

